

令和5年度 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

	1	2	3	4
項目	学習指導について	生徒指導について	進路指導について	ICT推進について
重点事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員個々のスキルアップと生徒に還元される授業改善を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学力の充実」を目指し、生徒の進路意識の高揚を図り、第一志望実現のための効果的な支援を行う。 ・大学入試改革に対応しつつ、本校の課題を明確にした進路事業改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Workspace, Chromebook, 電子黒板等によるICT活用の促進を図る。 ・先行実施する生徒の個人端末持ち込みに関する手続きやルール作りをし、スムーズな運用ができる体制を作る。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期の二度にわたり校内授業参観期間を実施した。 ・後期の校内授業研究会では外部関係者をお招きして実施した。 ・生徒理解や業務の効率化を高めるため、校内研修会を複数回実施した。 ・学校評価会議を通して、今後業務改善すべき点を協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Googleクラスルーム、及び生徒指導部報「うぐいす坂」を通して出来る限りタイムリーな注意喚起を行った。 ・例年通り年間4回の敬天週間を実施した。 ・生徒会による交通安全教室は今年も好評だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信や集会、日々の指導を通じ、本校の標榜するものや、生徒の現状と全国の情報等を職員・生徒・保護者で共有し、効果的指導に繋げた。特に、目的の明確化と検証による事業の形骸化防止と、先を見通した生徒・保護者を不安にさせない指導に努めた。 ・県トップ校として常に秋田県・東北地区を牽引する進路指導の取組と発信を行い、県全体・地区全体の進路意識高揚に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した進路関連資料作成に関する職員研修会を行った他、校内業務の様々な場面で職員のICT活用促進に取り組んだ。 ・来年度から個人端末の持ち込みを導入する方針とし、準備に取り組んだ。 ・業務系ドメインの変更、業務サーバの更新、校務支援システムの導入における対応を行った。
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生方が自教科・他教科問わずに授業参観をすることで、授業改善の意識が高まった。 ・ICT推進部と協力して校内授業研究会を実施し、googleを活用して効率的に各協議会を進めることができた。 ・業務改善では、学校評価会議を通して来年度に向けて改善すべき課題を建設的に協議することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の報告件数は13件とほぼ例年並みだったが、今年度より単なる自損事故はカウントせずに警察を呼んだものや病院に行くことになったもののみを事故としてカウントした。そのため例年通りであれば若干多かったと思われる。 ・概ね交通ルール遵守の姿勢は育めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と学年の連携から、生徒を多角的に把握した指導や声かけが増え、質も向上してきている。安全志向のみに流されず、第1志望に挑戦する生徒が多いことはその証左であろう。特に各学年、生徒把握と先々を見通した指導が洗練されてきている。 ・学校推薦型・総合型選抜への対応等、学校全体で生徒の進路実現を支える態勢が構築されてきている。 ・PTAや各協議会、学校訪問、メディア・業者の取材等を通じ、本校の取組と効果を発信し、保護者や他校、地域と目線を合わせた進路指導・キャリア教育が実践できつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のICT推進部の活動により、全体にスキルは向上してきている。 ・Chromebook端末の不具合等は変わらずに起こっているが、可能な限りの対応をしている。来年度からの個人端末の持ち込みに向けて方向性を確立した。 ・業務系ドメインの変更、業務サーバの更新、校務支援システムの導入に適切な対応を行った。
評価	B	B	A	A
次年度への改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のICT活用を目指してICT推進部との更なる連携を図る。 ・授業参観・研修会を充実させ、職員の指導力スキルアップに貢献する。 ・業務改善のスピード化で職員の負担を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の事故を分析（時期や状況、特徴など）し、よりタイムリーな注意喚起を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新課程入試初年度に伴う生徒・保護者の不安を払拭しつつ、高い志を貫かせる日々の進路指導を全職員でより一層意思統一して行う。 ・生徒の高い志望を達成する学力の充実を目指し、各教科・学年と連携し、目標設定と検証を適切に行った授業改善への呼びかけを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務ファイルサーバは上限の500GBに近づいており、対応を考える。 ・個人端末の持ち込みに向けて、他県の例等を参考にして対応を万全とする。 ・職員のICTスキルの向上のためにさらに研修等に取り組む、共有していく。
学校関係者のご意見・ご感想	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の生徒の実態把握のもと、各教科で具体的な手立てを講じて取り組まれている。 ・年間に「校内授業研究会」を位置づけて、互いに切磋琢磨し、授業力の向上に向けて研修している。 ・生徒にとって「わかる授業」・「魅力ある授業」を目指して今後も継続していただきたい。 ・全科目で教職員のスキルアップの努力が見られ、さらに、各学年部や教科間で緊密な情報共有や連携が感じられた。 ・教職員間の情報共有、授業参観、研修などが積極的に行われ、目標達成に向けた十分な動きは見られたのではないかと。 ・生徒が「わかる授業」・「学ぶ楽しさを味わえる授業」であるためには、教師一人一人の指導力向上が一番の鍵となります。その意味でも毎年の実施されている「校内授業研究会」は大切な研修の場だと受け止めています。「報告書」からも、充実した研修になったことがわかりました。協議会の報告では、主発問や補助発問の「よい点」「課題」「改善の手立て」に分けて整理されていたので、次に活かせると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来、生徒指導とは、交通事故防止だけではなく、学校生活を取り巻くあらゆる視点からの指導が求められる。にもかかわらず、毎年、年間の重点目標としてこの1つだけを掲げているのであれば、もっと成果を出していただきたい。記載されているタイムリーな注意喚起だけでは改善されないのではないだろうか。 ・身近にある基本的な交通ルールの遵守は、社会規範の体得に直結する。日々の生活指導を徹底するとともに、その基盤となる道徳指導も強化する必要があると思う。 ・交通事故について、防止への指導がされても、直接成果に結びつきにくいと推察するが、安全のため引き続き工夫をお願いします。 ・目に見える効果がないとすればタイムリーな注意喚起を超える対策を考えるべきである。 ・生徒一人一人に寄り添い、健全な心身と学力向上を目指す学校の役割を貫くためにも、保健室登校の生徒等の子どもを一人でもつらくてはいけなと思います。こんな時代だから年々増えるのは当然という前提ではなく、「不登校、あるいは保健室登校の生徒は一人もいないことが、我が校の自慢です」と言える学校づくりを願っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年での目標設定、2年での様々な迷い、3年で心を決めて向かっていくプロセスに、丁寧に寄り添っておられることが感じられた。 ・進路指導部と学年の連携が積極的に行われており、高い質の指導が維持されていると思う。 ・国公立大学中心の進路指導は否めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての科目で、効果的な利用に努めており、生徒にも浸透しつつあることが感じられた。 ・端末等の不具合、機器の不足、不十分についてはもっと声を上げて教育委員会等に改善をアピールするべきである。遠慮しては何か改善しない。
評価	A	B	A	A

令和5年度

1年部

年間実施記録

実施計画	重点目標	基本的な生活習慣、学習習慣および基礎学力の確立により、秋高生としての使命を自覚し、文武両道・自主自律を体現するための土台を育成する。	
	現 状	文武両道・自主自律を目指しつつも、その実現のための計画性や実践力、主体性が不足している。	
	具 体 的 な 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・秋高生としての使命を自覚させ、主体的に行動できる姿勢を育成する。 ・基本的な生活習慣と学習習慣を確立させる。 ・進路目標の明確化と、目標実現のために必要な基礎学力を定着させる。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事において、その意義や目的の理解に基づいた主体的な実践を促す。また、諸活動をとおしてルールやマナーの遵守、時間厳守を徹底させる。 ・手帳などを活用し、学習・部活動・行事などを踏まえたスケジュール管理と実行を促す。 ・自己を見つめ、自分に適した進路目標を見出す機会を多く提供し、適切な文理選択につなげる。また、目標到達を見据えた学力の定着のために、段階的な学習計画の立案と実行を促す。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等の意義や目的をその都度伝え、成果と課題を認識させた。 ・進路指導部発行の「羅針盤」等により学習活動の見通しをもたせた。 ・ガイダンスや担任のきめ細かな面談など、納得できる文理選択のために、あらゆる角度から様々な方策を講じた。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等の成果や課題を言語化することで、各種活動に主体的姿勢で向き合う契機が生まれたほか、集団活動の意義を認識できた。 ・進路指導部が主導するさまざまな仕掛けが学力向上のための意識高揚や学習習慣の確立を促し、成果を試す節目となる考查や実力テスト、模擬試験に高い目標を持って臨むことができた。 ・多方面の協力を得ながら時間をかけて文理選択の準備を行い、進路目標や将来を見据えた適切な選択ができた。 	評価 A
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣確立の重要性を再認識させ、質の高い文武両道や自主自律の実現を目指す。 ・手帳等を用いたスケジュール管理の体制を再構築させ、高校生活全体の充実につなげる。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、提言等適切だと思います。 	評価
		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を見ると、3年次より効果的な学びの率が下がります。1年のうちからアンケート結果の向上を目指すにはそうすべきかを解析して改良につなげる必要があります。 	A

令和5年度

2年部

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 中堅学年としての自覚を持ち、「おのれを修めて世のため尽くす」の精神のもと、主体的に行動できる生徒を育成する。</p> <p>2. 自己の関心・適性を理解し、確かな基礎学力を身に付けるとともに、探究心と高い目標を持ち学習に向かう姿勢を育成する。</p>	
	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学校生活を送っており、素直に指導にのるが、自分に自信を持って消極的な姿勢の生徒も多い。 ・進路目標が定まらず、不安や焦りを感じている生徒が見られる。 	
	具体的な目標	<p>1. 中堅学年としての立場を自覚し、周囲の状況や自己の立場を理解した上で、他者と協力しながら物事を成し遂げるリーダーシップを育成する。</p> <p>2. 自己の適性に基づいた進路目標の明確化と、その達成のための学習計画を立案・実践できる力と精神的強さを育成する。</p>	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事の意義や、行事における自己の役割・成長を言語化し認識させる。 ・面談機会を充実させ、進路講演会やオープンキャンパスへの参加を促す。 ・生徒の基礎学力定着を図ると同時に主体的学習を促す授業改善を実施する。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や模試・講座・進路講演会等実施後の、振り返りフォーム入力を徹底させた。 ・羅針盤による進路情報提供、ホワイトボードでのメッセージ、TLC や THC の説明会、「医師の日」の実施等による、生徒の進路・学習に対する動機付けを行った。 ・模試結果の精密な分析と、分析に基づいて各教科が対応策を講じた。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事に積極的に参加し、各々責任を持って役割を果たしていた。また実施後の自己分析も適切に行っていた。 ・適切なタイミングでの進路情報提供・面談により、進路や学習に対する意識を高められたが、進路選択に悩んでいる生徒も存在する。 ・各教科で、生徒が補強すべき分野を焦点化した取組を行った。主体的な学習態度の育成には、まだ改善の余地がある。 	評価 B
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の適性や事情を把握した上で、適切な進路選択を促す。 ・適宜必要な支援を与えながら、個々の生徒の自立学習を促す。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の改善策にもう少し具体性がほしい。 ・自己評価、提言等適切だと思います。 	評価
		<ul style="list-style-type: none"> ・難しい問題ですが、中間層から下のレベルの向上を効果的に進めるか、2年次前期までが鍵になると思います。 	B

令和5年度

3年部

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 最上級生としての自覚をもち、「おのれを修めて世のため尽くす」の精神のもと、自他を尊重する姿勢を育成する。</p> <p>2. 自己評価と分析を適切に行い、自らの課題を見い出しながら、進路目標達成に向けて真摯に努力を重ねることのできる生徒を育成する。</p>	
	現 状	<p>1. 部活動や生徒会行事でリーダーシップを発揮しつつあり、主体的に行動する姿勢が見られるようになってきた。</p> <p>2. 家庭学習習慣の定着度に差が見られる。また質の向上、内容の整理と関連付けに課題を抱える生徒が多い。</p>	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団における自己の役割と責任の自覚を促すとともに、主体的に社会に貢献する態度を育ませる。 ・模試やテストにおける適切な目標設定と課題の明確化を促し、確固たる意志で第一志望へ向かう生徒を育成する。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の意義と自己の成長を認識させる適切な声かけを徹底する。 ・個々の生徒の多角的な把握と学年全体での共有、および面談の充実を図る。 ・目標点の設定と、データに基づいた自己分析（現状と課題）を徹底する。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や進路行事の際には、学年集会や進路通信「羅針盤」などを活用し、自ら動くことの意義を伝え、秋高生としてのあるべき姿とは何かを考える機会を多く与えた。 ・現状分析と課題の共有をベースにきめ細やかな面談や指導を行い、生徒個々の目標設定とともに、達成までの道筋を明確化した。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は職員の言葉を真摯に受け止め、秋高生としてのプライドを持ち、各種行事や部活動に主体的に取り組んだ。 ・達成度や得意不得意に個人差はあるが、第一志望を貫く前向きな姿勢が多く見られ、進路目標達成に向けて一人ひとりが努力を重ね、着実に力を伸ばしている。 	評価 A
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・低学年次における高い意識付けのための、組織的な指導の充実を目指す。 ・「自己有用感」に裏付けられた「自己肯定感」を育むための、生徒指導・教育相談・学年の連携の強化を図る。 	
学校関係者評価		意見 <ul style="list-style-type: none"> ・これからも多くの子供たちが、秋田高校で過ごせて良かったと言ってくれるような学校、環境作りをお願いします。 ・このアウトカムを達成するために、1年次からの展開をより改良につなげてほしい。（特に中間層から下のレベル） 	評価 A

令和5年度

国語科

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 生徒の基礎力の定着を図り、主体的・対話的な言語活動を支援する。</p> <p>2. 生徒個々の進路目標を達成させるとともに豊かな人間性を涵養する授業を目指す。</p>	
	現 状	<p>1. 基礎力養成のために小テストや朝学習での現代文要約等、基本的な知識の定着や文章の構成を掴む方法の習熟を図っている。またクラスルームを通じて時宜に即した情報を提示し学習への意欲を喚起するとともに、個々の理解度の確認や、考えの共有、授業の振り返り等にクロームブックを利用し、効果的な活用方法を試みている。</p> <p>2. ペアやグループで話し合いの場が自分の考えを深める場として機能するよう、授業の展開や話し合いの方法等について改善に努めている。</p>	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語における受験学力の一層の向上を図る。 ・ 国語学習の様々な場面を通じて、生徒が抱いた疑問や気づきを他者と共有し深めることで、自らの力を伸ばしていけるよう支援し人間性の育成を図る。 ・ タブレットや電子黒板の有効な活用方法を工夫する。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の興味・関心・思考力を高められる教材や情報を共有し、個々の進路達成に資する圧倒的な基礎力の定着と理解力・表現力の伸長を図る。 ・ ペアやグループでの活動を適宜取り入れ、学び合い伝え合うという言語活動の活発化を図る。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間を見通した上での小テストの実施や、古文単語テストの1・2年生合同実施、複数テキストを意識した授業や発展的な内容を取り入れた問題演習等、学力の伸長に努めた。 ・ 研究授業では、クロームブックを活用し生徒たちが意見を交換する展開の中で、生徒の考えの取り上げ方、意見交換から本文理解へと深めるための視点等について教員間で話し合うことができ、改めて普段の授業を見直し改善点を明確にする機会を得ることができた。 ・ 例年通り、東北大A O IIの文学部・教育学部の小論文、秋田大学医学部医学科推薦入試Ⅱの小論文の指導を国語科教員全員で分担し、3年間を見通しての指導のあり方について学年間で情報を共有した。教員各自の指導力の伸長にもつながっている。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年部では添削指導を通年で実施するとともに、TLC・THCの解説講座も十分な時間を取って実施し、大学入学共通テストの自己採点成績では、全国平均を30点上回り受験学力の伸長という点でも成果をあげることができた。 ・ 1・2年生については、模試の結果も良好で、東北地区2位・3位の好成績を維持している。 	<p>評価</p> <p>A</p>
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度から共通テストの形が大きく変化することを踏まえ、模試の傾向を分析しながら、生徒の力を伸ばすため、より有効な方策を考え試みたい。 ・ 生徒自身の疑問を生かし学ぶ意欲を一層引き出すため、効果的な発問や対話のあり方等、より良い授業を目指して教科内での情報共有と研修に努める。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画「現状」には生徒の実態を記載した方が良い。記載されている手立ては、「目標達成のための方策」に記入すべく内容である。 ・ 東北地区の試験成績で実証しており、さらに伸ばしてほしい。 	
		<p>評価</p> <p>A</p>	

令和5年度 地歴・公民科 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 大学入試に対応できる知識・技能、および思考力・表現力を伸張させる授業を展開する。また、学説の紹介等で知的好奇心を喚起する。 2. 新科目である「各探究科目」、「公共」の授業モデルを構築する。		
	現 状	1. 生徒の知的好奇心を満たし、思考力が育まれる授業展開を多角的に追究していく必要がある。 2. 新科目の授業展開および評価について、試行錯誤の段階である。		
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学説研究や大学入試研究などを充実させ生徒の意欲をいっそう喚起するとともに、将来の生き方を模索できるような授業展開を目指す。 ・特に新科目において、事象を多角的に考察させ、課題を追究し解決するための構想や議論など、活動を重視した授業を展開する。 		
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用や最新の学説紹介などにより事象を多角的に捉えさせる。 ・対話や議論などを通して事象を体系化していく能力を育成する。 ・授業改善のための情報共有を日常的に行う。特に新科目においては、秋田高校の授業モデルを科全体で作り上げていくために、各授業の事前、事後の情報交換を定期的に行う。 		
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・資料等の読み取りから思考力・判断力を向上につながる考查問題等の作成を積極的に行った。 ・「地理総合」・「歴史総合」及び「公共」では、思考力を高めるための「問い」を中心とする授業を展開した。 ・電子黒板の活用や画像・動画資料などを活用し、多角的に事象を捉える態度を身に付けさせた。 		
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・発問の工夫により生徒の関心が高まり、思考力の育成に結びつくことを実感できた。 ・新しい科目の授業展開について、工夫の蓄積と課題の集約ができた。 ・観点別評価を深化させることができた。 	評価 A	
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・対話的学習と学習内容の定着及び進度について、そのバランスを考慮し、内容の精選や定着の度合いを定期的に確認する。 ・教材観などの情報共有や授業の相互参観を積極的におこない、授業の質を上げていく。 ・学説研究や大学入試研究などを充実させ、専門性の向上と、授業改善につなげる。 		
学校関係者評価		意見	<ul style="list-style-type: none"> ・実施計画の「現状」には、具体的な生徒の実態を記載した方が良い。 ・より効果手的なICT活用が必要そうである。 	評価 A

令和5年度

数学科

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 授業を通して数学に対する興味・関心を高め、他者と協働し、主体的に課題を解決する能力の育成を図る。</p> <p>2. 進路実現のために数学の学力の向上を目指す。</p>		
	現状	<p>1. 個人として授業での発問やグループ活動、課題の出し方を工夫するなど授業改善に取り組んでいるが、さらに教員間での連携を密にし、生徒の主体性を育むために改善を図る必要がある。</p> <p>2. 大学の選抜方法を考慮しながら個別試験への対応について、組織的に取り組む必要がある。</p> <p>3. 共通テストでの本校の目標を達成できていない。(全国平均+15点)</p>		
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な授業方法を研究し、実践することで、効果的な授業改善を行う。 基礎・基本事項を定着させるための方策を講じる。 難関レベルの大学入試に対応できる応用力を身に付けさせる。 共通テストにおいて、全国平均+15点を目指す。 		
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 共通テストに向けて、低学年次からの体系的な指導を構築する。 ICTを活用した授業方法の共有、習熟度や個別指導などの充実、課題の出し方、各種テストの仕方を工夫する。 難関大レベルの指導を計画的に実施する。 各種研修会や数学オリンピックなどの外部イベントへの参加を積極的に行う。 		
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 日常の授業や研究授業において、適宜ICTを活用し、授業改善に努めた。 基礎学力の向上を目指し、ミニテスト、確認テスト、C1グランプリを実施した。 授業内での入試問題演習やTLC、THCの解説講座を通して意欲的な学習を促した。 普通科理系において習熟度別にクラス分けを行い、演習の難易度に差をつけ理解を図った。 		
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善とICTの活用を積極的に行い、習熟に応じた指導を実践することができた。 各種テスト、課題を用いて、基礎・基本の徹底が図れた。 THCやTLC、冠模試について、実情に応じた解説を行うことで、理解を促すことができた。 	評価 A	
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 難関大志望者に対する指導、意識付けは行えているが、中位層から下位層に対する手立てを講じなければ本校における共通テストの目標は達成できない。特に文系の指導の見直しを図る。 意欲的な学習に結びつける授業内での仕掛けを充実させ、科内の連携の充実を図る必要がある。 		
学校関係者評価		意見	<ul style="list-style-type: none"> 実施計画「現状」にはもっと生徒の実態を記載した方が良い。 全国平均+15点は未達だが、他で良い兆候が見られた等を付記すると良かった。 中間層から下のレベルの問題意識を改良につなげてほしい。 	評価 A

令和5年度

理科

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 授業を通して、自然科学に関する知的好奇心を高め、主体的に学習する生徒を育てる。</p> <p>2. 実験観察を効果的に実施するとともに、ICTの活用を図った授業改善を通して、自然科学を探究的に理解する学習につなげる。</p>	
	現状	<p>1. 自然科学に関する興味関心はもっているが、疑問を思考につなげ、主体的に学習する生徒が必ずしも多くない。</p> <p>2. 新学習指導要領がスタートして2年目を迎え、観点別評価を生かした学力の充実に一層取り組む必要がある。</p>	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験観察を計画的に実施するとともに、ICTの活用を通じた授業改善を図り、生徒の自然科学に対する知的好奇心を高める。 ・ 問題演習への取組状況を定期的に確認し、演習を通じた自然科学の本質の理解につなげ、生徒の学力充実を図る。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の相互参観を通して、生徒の主体的な学習につなげる取組について、理科部会内で共有し各自の授業改善に取り入れる。 ・ 観点別評価を生かした学力の充実に向けて、実験観察や問題演習の評価の在り方について、一層の工夫改善を図る。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 春の校内研究授業、中堅教諭等資質向上研修などを通して、実験観察やICTの活用を通じた授業改善を図った。 ・ 月1回の教科打ち合わせに加え、チャットを活用した情報共有を通して、観点別評価の改善や、学力充実につながる問題演習について、共通理解を深められるようにした。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業アンケートの評価は、前期に引き続き昨年度より高い状態が継続しており、模試や共通テストの成績にも反映している。これまでの授業改善への取組の成果といえる。 ・ 観点別評価については、1，2年生での実施となったが、実験観察や問題演習の評価の在り方について、一層の工夫改善を図る必要がある。 	評価 B
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験観察やICTの活用を通して、観点別評価を生かした生徒の学力の充実にについて、教科内でさらに研究を重ねる必要がある。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「達成状況」に評価がAでなくBである根拠が示されている。 ・ ドリル演習などICTの活用が期待される。 	

令和5年度

英語科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 進路志望達成のための指導法を研究し、実施する。 2. 実践的コミュニケーション能力の伸長を図る。	
	現 状	1. 上位者から下位者まで幅広い成績分布である。 2. 分野により各種試験の得点率に差が生じている。	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力に応じて適切な学習指導を行う。 学習状況や成績の推移を的確に把握し、臨機応変な対応を行う。 自律的に学ぶ姿勢を養う指導法の研究を行う。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒に対してきめ細やかな指導を継続的に行う。 各種試験の結果を迅速に分析し、臨機応変に指導計画を見直す。 ペアワーク、グループワーク、ICTの活用等多様なアプローチを通じて自らの意見を発信し、表現力を高める。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 上位層には自律的に学習を進める手立てについて支援し、中・下位層には授業内容の理解と基礎力の定着を促す取組を継続した。 各種テスト・模試結果の分析を多角的に行い、3年間を見通した指導の在り方をもとに課題や講座の内容を検討し、改善を図った。 授業において言語活動の充実を図るとともに、パフォーマンステストの実施や継続的な英作文添削、授業内外でのICT活用等を通して、論理的に英語で表現する機会を設けた。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 全学年において、語彙や文法の定着を徹底し、段階に応じた基礎力の確立と受験体制への取組に繋げていくことができた。 テスト・模試結果の分析を速やかに行い、得点率の低い分野について、過年度や他学年での取組を共有しながら、授業や講座等で底上げを図ることができた。 言語活動の充実により、発信力・表現力を向上させることができた。 	評価 A
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を定着させる取組を継続する。 生徒の知的好奇心を刺激し、思考力・判断力・表現力を高める学習活動を継続する。 入試の動向やICTの活用について、科内で情報共有と研修に努める。 	
学校関係者評価	意見	自己評価、次年度への提言ともに適切だと思います。	
		英語では、将来に向けてより効果的なICT活用についての検討が必要そうですが、詳細な記載なかったので、必要そうです。	
		評価 A	

- 【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。
 B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。
 C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度

保健体育科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。	
	現状	1. 運動や健康に関する課題を発見し、その解決に向けて ICT を活用しての主体的な学習活動が不十分である。 2. 仲間と協働しながら活動する運動時間が短い。	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用し、動作分析やデータ共有などを通じて技能向上を目指す。 種目の選択方法を工夫し、運動強度の高い活動時間を多く確保する。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間で ICT を活用し、プレー動作を撮影して分析したり、そこから得られる情報をグループ内で共有したりすることで、技能向上につなげる。 運動強度の高い「バスケットボール」「バレーボール」「サッカー」を前期の一定期間において継続して実施する。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> chromebook を活用し、生徒同士でプレー動作を撮影し合い、それを分析し課題解決を目指してグループ協議を行った。 バスケットやバレーの実施時数を多く設定し、偏りが出ないように、野球やサッカーと併せて選択できるようにした。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 球技や武道において ICT を活用したが、自己の動作分析だけでなく、他者の動作分析から新たな気づきが生まれて課題解決につながり、技能向上に向けて主体的に取り組むことができた。 活動スペースやゲーム時間が増加したことで、高い運動量を継続して実践していくことができた。 	評価 B
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 他者と協働して行うグループ協議が苦手な生徒もいるので、どのような支援ができるか検討しなければならない。 学年が上がっても高い運動量で主体的に活動することを継続していけるように実施時数を確保する。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価Bの根拠が「次年度の改善策」に記載されていた。状況が飲み込めた。 	評価 B
		<ul style="list-style-type: none"> 生涯大切な、適切な生涯スポーツ実践につながる展開があれば興味深い。 	

- 【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。
 B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。
 C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度

芸術科

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 表現領域に応じた適切な課題設定により、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 2. キャリア教育的視点で個々の生き方を問いながら、豊かな人間性を育む授業を目指す。	
	現 状	1. 興味・関心、能力の高い生徒は多いが、作品等について互いに批評し合い、感じ取ったことを共有し合う意識は低い。 2. 芸術の学びを通して、自らの生き方や芸術との関わり等について考える視点をもつ生徒は比較的少ない。	
	具 体 的 な 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術的な諸能力の伸長を促す。 ・ 発展的な題材・教材を精選する。 ・ 芸術の諸能力を伸ばしながら自己を問い、豊かな人間性を育む。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ より発展的な内容を扱うことで、生徒の知的好奇心を喚起しつつ、個に応じた諸能力の伸長を図る。 ・ 課題意識や想いを生徒間で共有し、試行錯誤を繰り返しながら解決に向けて取り組めるよう、題材を精選する。 ・ 効果的にICT機器を活用しながら、様々な作品に対する鑑賞能力の伸長を図り、生徒自ら考えながら表現の向上に結びつける指導を工夫する。 	
実施内容	具 体 的 な 取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏、制作ともに、基礎的事項を踏まえて、生徒の関心や意欲が高まるように発展的な題材や曲目を厳選した。 ・ 自分の表現と向き合う時間と、生徒相互の意見交流の時間を設定し、課題意識の共有をするとともに深い思考を促す授業展開を工夫した。 ・ 表現技法の提示、鑑賞活動、お互いの考えの共有などにChromebookや電子黒板等などのICT機器や音響機器を活用した。 	
	達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展的な内容を展開したことで、生徒の知的好奇心を十分に喚起し、関心・意欲を高めることができた。 ・ 生徒相互の活動を通して、お互いを理解するだけでなく自己理解が進み、表現と鑑賞活動の深まりが得られた。 ・ ICT機器を効果的に活用することで、技法の理解、生徒の意見やアイデア等の可視化、主体的な取組の支援などが充実した。 	評 価 B
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の内容を次年度もさらに吟味しながら、表現および鑑賞活動を年間指導にバランスよく取り入れ、生徒の能力を向上させる題材の精選を継続して行う。 ・ ICT機器をどのタイミングで使用すればより高い学習効果を得られるか検証し、授業展開の工夫を図る。 	
学校関係者評価	意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成状況を見ると自己評価はBではなくAでも良いのではないか。 ・ この分野でのICT活用が興味深い。 	

令和5年度

家庭科

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫できるようにする。</p> <p>2. よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。</p>	
	現状	<p>1. 学習内容を自分に必要なものと認識し、よりよい生活を営むために自立度を向上させたいという意欲が高い反面、多忙で身の回りのことを保護者に依存して生活している生徒が見られる。</p> <p>2. よりよい社会の構築に貢献したいとする意欲が高い生徒が多い。</p>	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を自分の実際の生活や人生に引き寄せて考えられるように、体験学習の機会を確保し、言語活動により深化を図る。 ・ホームプロジェクト等により、自分自身の生活課題を把握させ、改善・解決を図らせるようにする。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・Webコンテンツ等ICTを効果的に活用し、実践的な学びを工夫する。 ・探究型・課題解決型の授業実践を工夫する。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・例年より実験・実習やロールプレイ、Webコンテンツを活用した体験的・実践的な学習の機会を多くし、言語活動により学びを深めた。 ・問題解決学習のホームプロジェクトは、Chromebookを活用したクラス内発表会でクラスメイトの学びを相互に共有できるようにした。 ・現在の生活はもちろん、生涯を見通してライフステージごとの課題を意識させるように工夫した。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、衣・食・住生活や消費生活に関する体験的・実践的な学習は主体的で深い学びにすることができた。生徒の印象にも強く残り、反響も大きかった。 ・現在及び将来の自分自身の生活の充実・向上だけでなく、よりよい社会の構築に向けて自分ができることについても考えさせることができた。 	評価 A
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・体験的・実践的学習を例年より増加させたことにより、知識を身に付けさせるための授業時数を削減せざるを得なかった。次年度は、体験的・実践的学習の機会は確保しながら、学習内容の精選を工夫したい。 ・学習内容の精選や授業実践にあたっては、今年度よりもさらに、小・中学校での学びとの系統性や教科横断性についても吟味したい。 	
学校関係者評価	意見	<p>的外れかもしれませんが、人生100年時代、衣食住の衣は、衣ではなく、医が重要な時代になってきている。これからの時代、自分の健康を守るためにも患者力の向上は、重要である。</p>	評価 A

令和5年度

情報科

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 「情報リテラシー」「情報モラル」を身に付け、さらに「ネットワーク」「プログラミング」等の知識を身に付け情報を活用する能力を高める。</p> <p>2. 共通テスト「情報Ⅰ」に対応できる学力を身に付けることを意識した授業をし、多くの問題演習を通して学力を高める。</p>	
	現状	<p>1. 情報という教科全般について知識やスキル、意識に個人差がある。</p> <p>2. 共通テストに出題されることは理解しているが、出題内容やどのレベルまで求められるのかわからない。</p>	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や演習を多く取り入れて情報リテラシーや基本となる知識を高め、情報に興味を持ち、さらに活用する能力を高める。 ・共通テストに関する情報収集に力を入れ、生徒に提示し問題演習を多く取り入れ共通テストに対応できる学力を身に付ける。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な実習・演習について実施例を研究・実践し本校の実態に合わせた効果的なものにしていく。 ・共通テストを意識した内容を授業に随時取り入れ、また出題が予想される問題演習をし、生徒の理解度を確認する。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに行ってきた実習に加え、新たな実習を考え生徒ができるだけ体験して知識が習得できる授業作りをした。 ・共通テスト問題集や模試を参考にして多くの問題に触れられるようにした。 ・教科書には記載がないが模試等には出題されている分野があり、その分野を授業で取り上げた。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・実習になると積極的に取り組む生徒が多く見られ、理解を深めたと考えられる。 ・教科書をまず最後まで終わることを優先し、少しずつとはなったが共通テスト問題集等の問題に触れた。 ・各社の教科書にばらつきがあり、模試等に出題されていて生徒も取り組みやすいと思われる分野や多く出題されている分野を扱った。 	評価 A
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が体験して理解を深めるということを第一に考え、さらに実習の内容改善や新規のものを考え、実行する。 ・共通テストに関する情報を多く収集し、すぐに授業で取り上げることで生徒の理解を深める。 ・現教科書で扱っていないが共通テストに出題されそうな分野をしっかり把握して早期に対策を進める。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価に同じ。 ・情報リテラシー、収集力は、大学、社会に出てから、かなり重要なので、高校生のうちに身につけさせたい。 	評価 A

【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。

B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。

C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度

総務部

年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 創立150周年記念事業を成功させる。 2. PTA会則や各種規定、マニュアルを見直す。	
	現 状	・9月1日に行われる創立150周年記念事業が行われる。 ・これまでの会則や規約、規定が対応できているか。	
	具体的な目標	1. これまでの計画を円滑に実行に移す。 2. PTA規約等の見直しを検討する。	
	目標達成のための方策	・校内実行委員会ならびにミルハスとの緊密な連絡を行う。 ・年内にPTA会則等を見直し、必要に応じて改正する。改正にあたっては、新年度から運用できるように努める。	
実施内容	具体的な取組状況	・創立150周年記念事業については、関係各機関、部署と連携をとりながら進めた。 ・PTA規約の年度内の見直しについて、PTA三役と話し合いをもち、具体的な改正について手続きを進めている。	
	達成状況	・創立150周年記念事業について、円滑な企画運営、実施ができた。 ・PTA規約の改正について、年度内の実施の見通しが立っている（PTA評議員の選出方法について）。	評価 A
次年度の改善策		・創立150周年記念事業について、創立160周年にむけて各分掌の振り返りを系統的にまとめる。 ・PTA規約の改正について、改正された規約の実施と評価を行う。	
学校関係者評価	意見	・自己評価に同じ。 ・150周年、お疲れさまでした。	

- 【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。
B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。
C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度 教 務 部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 引き続き、新しい教育課程、観点別評価導入、指導要録様式変更への対応を進める。 2. 新しい校務支援システムの導入への対応を進める。	
	現 状	1. 新しい教育課程導入の2年目に入り、対象となる科目も増加する。 2. 出席管理、成績処理、指導要録など、多くの項目の取り扱いが変更されるが、詳細が不明な点も多い。	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の作問のあり方など、評価方法の工夫について職員間での情報共有を図る。 新校務支援システムへの移行を進めデータ処理の手順を周知するとともに、データ管理のあり方に留意して成績等の処理を行う。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 場合により従来のデータ処理方法を併用しながら、新校務支援システムを用いたデータ処理について職員間の周知を図る。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 作問や評価指標の設定において、3観点を反映させる視点が少しずつ定着している。 新校務支援システムは使い方を確認しながらゆっくりと進めている。観点別評価の途中経過通知には対応しておらず、急遽昨年度のファイルを使用している。作業期限を柔軟に変更しながら、正確なデータの取り扱いを進めている。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 年間学習計画や考査日程のあり方、また評価の仕方など、新教育課程に対応した変更が進んだ。 新校務支援システムの使い方には1年間通してみても理解できる部分がある。運用可能な部分と不可能な部分の理解が進み、徐々にではあるが円滑なデータ処理ができるようになった。 	評価 B
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 全学年が新教育課程となり、入学から卒業までの3年間の教育課程のあり方を検証していくことが肝要である。 新校務支援システムの円滑な利用方法を確認し、職員に周知していく。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> できたことだけでなく、課題を残した点を付記するとよいと思う。 とにかく学生も教員も多忙なので、効果的な展開を意識して、アウトカムベースの学びを工夫してほしい。 	
		評価 B	

- 【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。
 B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。
 C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度

進路指導部

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 「学力の充実」を目指し、生徒の進路意識の高揚を図り、第一志望実現のための効果的な支援を行う。</p> <p>2. 大学入試改革に対応しつつ、本校の課題を明確にした進路事業改善に取り組む。</p>		
	現状	<p>1. 大学入試改革や共通テストの不安定さに伴う生徒・保護者の安全志向を考慮に入れつつ、高い志を貫かせる指導が求められている。</p> <p>2. 生徒の学力状況の把握と職員間での共通理解、情報共有、継続的な授業改善、入試改革への対応が、常に求められている。</p>		
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路事業の理念・方法の明確化と検証によるフィードバックを図る。 ・進路指導部と学年部、各教科との連携を密にし、意思疎通を図る。 ・生徒の志望と学力状況を的確に把握・分析し、職員間で共有しながら、時期性を鑑みた目標を定め、指導実践・改善に取り組む。 		
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部・学年・各教科の指導の目線合わせを行う。 ・実力テスト・模試・TLC・THC・医師の日・講演会等の事業の機能を向上させ、効果を実感できる取組とする。 ・難関大受験で点数が取れる指導実践を推進する。 		
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・通信や集会、日々の指導を通じ、本校の標榜するものや、生徒の現状と全国の情報等を職員・生徒・保護者で共有し、効果的指導に繋げた。特に、目的の明確化と検証による事業の形骸化防止と、先を見通した生徒・保護者を不安にさせない指導に努めた。 ・県トップ校として常に秋田県・東北地区を牽引する進路指導の取組と発信を行い、県全体・地区全体の進路意識高揚に努めた。 		
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と学年の連携から、生徒を多角的に把握した指導や声かけが増え、質も向上してきている。安全志向のみに流されず、第1志望に挑戦する生徒が多いことはその証左であろう。特に各学年、生徒把握と先々を見通した指導が洗練されてきている。 ・学校推薦型・総合型選抜への対応等、学校全体で生徒の進路実現を支える態勢が構築されてきている。 ・PTAや各協議会、学校訪問、メディア・業者の取材等を通し、本校の取組と効果を発信し、保護者や他校、地域と目線を合わせた進路指導・キャリア教育が実践できつつある。 	評価 A	
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・新課程入試初年度に伴う生徒・保護者の不安を払拭しつつ、高い志を貫かせる日々の進路指導を全職員でより一層意思統一して行う。 ・生徒の高い志望を達成する学力の充実を目指し、各教科・学年と連携し、目標設定と検証を適切に行った授業改善への呼びかけを継続する。 		
学校関係者評価		意見	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な評価である。 ・有名私立大も含めた幅広い視点での情報提供が必要そうである。 	評価 A

令和5年度 生徒指導部 年間実施記録

実施計画	重点目標	・交通事故の未然防止	
	現 状	・令和5年度生徒指導部に報告のあった交通事故件数は11件とほぼ例年並み。※H29-16件、H30-13件、R1-19件、R2-10件、R3-13件 やはり1年生が多く、7件。令和4年度は、交差点で他の車両との接触が多かった。	
	具体的な目標	・交通事故件数を5件以内。重大事故の未然防止。 ・自転車乗車に際してのルール、交通社会でのルール遵守の姿勢を育む。 ・生徒会執行部を中心に生徒自らが交通事故防止へ取り組む姿勢の醸成。	
	目標達成のための方策	・Google クラブルーム及び生徒指導部報「うぐいす坂」を効果的に活用し、常に交通安全を呼びかける。 ・関係機関（秋田東警察署、少年保護育成委員会、PTA、生徒会）の協力を得ての年4回の敬天週間の実施。 ・生徒会企画による交通安全教室への支援。	
実施内容	具体的な取組状況	・Google クラブルーム、及び生徒指導部報「うぐいす坂」を通して出来る限りタイムリーな注意喚起を行った。 ・例年通り年間4回の敬天週間を実施した。 ・生徒会による交通安全教室は今年も好評だった。	
	達成状況	・交通事故の報告件数は13件とほぼ例年並みだったが、今年度より単なる自損事故はカウントせずに警察を呼んだものや病院に行くことになったもののみを事故としてカウントした。そのため例年通りであれば若干多かったと思われる。 ・概ね交通ルール遵守の姿勢は育てている。	評価 B
次年度の改善策		・今年度の事故を分析（時期や状況、特徴など）し、よりタイムリーな注意喚起を行う。	
学校関係者評価	意見	・次年度の改善策は毎年同じ記述であるが、もっと具体的な手立てを明記してほしい	評価 B
		・報告内容を見ると、もっと良い評価でもよいと思う。 ・高校生の交通死亡事故の実例、自転車による加害の実例など、高校生の意識付けには入学時の指導が重要そうであるが実情が見えなかった。	

【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。

B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。

C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度 特別活動部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 自主的、実践的な集団活動を通して、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	
	現 状	1. 多くの生徒が「文武両道」「自主自律」の精神を実現させるべく前向きに取り組んでいる。 2. 学業と部活動との両立に苦しんでいる生徒が多い。	
	具体的な目標	1. 各分掌と協力し、キャリア教育的視点に立ちながら「文武両道」「自主自律」を体現するための支援の充実を図り、特別活動を通じて人間性豊かな生徒を育成する。	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に取り組みやすい環境作りに努めるとともに、学業との両立を図るため、適切な部活動が行われるよう促す。 ・LHRの時間を効果的に運用する。 	
実施内容	具体的な取組状況	1. 150周年記念事業においては、招待試合に向けて準備を進め、滞りなく実施した。また、各部の協力を得ながら記念誌中の部活動の記録を完成させることができた。 2. 第5回「北雄の翼」は4年ぶりに米国での実施となり、26名が参加し、有意義な研修となった。	
	達成状況	1. 各部活動において、コロナ禍前のように大会もほぼ全て再開され、活発な練習や活動が行われた。 2. 各大会が通常開催され、運動部では7部延べ44名、文化部では7部延べ30名が全国大会へ進出した。 3. LHRの時数を確保し、進路学習や講話など多岐にわたる活動が行われた。	評価 B
次年度の改善策		1. コロナが5類に移行したが、引き続き感染症対策を呼び掛けるとともに、部活動に取り組みやすい環境づくりに配慮する。 2. 来年度も引き続き米国で実施される予定の「北雄の翼」において、参加した生徒にとって有意義な研修となるように準備を進める。	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価のたびに課題を見つけ記録していくとよい。 ・情報が多くなっているが、アウトカム目指して、生徒の過負荷にならないバランスよいカリキュラムを検討してほしい。 	評価 B

令和5年度

図書部

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 図書館及び図書閲覧コーナーの環境整備を促進し、生徒や職員の利用に資する。</p> <p>2. 図書館報や図書便りを発行し、図書館と図書館設置の書籍について情報発信することで、読書に対する意欲を喚起する。</p>	
	現状	<p>1. 現在の図書館は学習室として重要な役割を担いつつも、読書の場としての機能は十分に果たしているとはいえない。その点を補うために、図書閲覧コーナーを本への興味を喚起し図書を気軽に借りられる場として整備し、生徒の利用を促すような工夫が必要となっている。</p> <p>2. 年一回の図書館報の発行にとどまっているため、図書委員による図書館便りの発行を考えている。</p>	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新刊図書等の情報提供を充実させ図書閲覧コーナーの利用者を増やす。 ・図書委員による図書館便りを定期的に発行し、図書館及び書籍に関する関心を高める。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書閲覧コーナーで、POP等を通じて定期的に新刊図書や推薦図書を紹介する。 ・図書館報「たろんぺ」の発行を年二回とし、「図書館」のクラスルームを通じて、図書委員による新刊案内を定期的に発信する。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・他校とのPOP交流を活用し、図書閲覧コーナーで推薦図書等の紹介を行った。 ・図書館報「たろんぺ」の発行は一回にとどまったが、秋高祭での図書委員による座談会の放送や、郷土史に関する本のミニコーナーの設置等、本を読む楽しみを発信する機会を増やすことができた。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書閲覧コーナーの本はジャンルや新刊図書・推薦図書等充実してきており、利用者も徐々に増えつつある。 ・秋高祭での古本市や、放送による発信、他校とのPOP交流、図書館書架へのミニコーナーの設置等、図書委員が意欲的に活動することができた。 ・図書館書架の整理、図書の破損箇所の補修等にも取りかかることができた。 	評価 B
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員の活動への意欲を生かした企画を充実させる。 ・書庫内の本の整理と図書館書架の本の入れ替えを行い、より生徒が関心を持てる図書の設置を行うとともに、閲覧コーナーでの本の配置を工夫する。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館で電子ブックや情報検索が十分できないと大学でもなかなか向上が困難なのが日本の現状かもしれません。世界の高校ではどうなのでしょう？ ・自己評価に同じ。 	
		評価 B	

- 【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。
 B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。
 C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度 企画研修部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 教職員個々のスキルアップと生徒に還元される授業改善を目指す。 2. 校務の効率化を目指した業務改善をし、全職員が活用できるようにする。	
	現 状	1. 授業改善・業務改善におけるICT活用が進んではいるが、職員間での共有は十分でなく、リテラシー格差も生じている。 2. 授業改善・業務改善のPDCAサイクルは確立されたが、目標達成までのスピード感のある実践、効率化や省力化には依然として課題が残る。	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・e-akita 事業とICT機器の活用について、職員間の意識共有およびリテラシー向上に努める。 ・校内授業研究会では、外部関係者も交えて意見交換をして授業改善をし、生徒への還元を考える。 ・業務改善のPDCAサイクルを回し、目標達成までのスピード化を図る。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT推進部をはじめ各分掌・学年とも連携を図り、授業や業務の改善に効果的にICTを活用するよう呼びかけ、各種情報提供を行う。 ・校内授業研究会では、前期・後期（公開）ともに、教科を越えた参観・協議を促し、生徒への還元案を提出してもらう。 ・業務改善は、前期・後期でそれぞれ分掌の実施状況を把握し、全職員で共有して、改善目標達成まで協働し取り組むよう働きかける。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期の二度にわたり校内授業参観期間を実施した。 ・後期の校内授業研究会では外部関係者をお招きして実施した。 ・生徒理解や業務の効率化を高めるため、校内研修会を複数回実施した。 ・学校評価会議を通して、今後業務改善すべき点を協議した。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの先生方が自教科・他教科問わずに授業参観をすることで、授業改善の意識が高まった。 ・ICT推進部と協力して校内授業研究会を実施し、googleを活用して効率的に各協議会を進めることができた。 ・業務改善では、学校評価会議を通して来年度に向けて改善すべき課題を建設的に協議することができた。 	評 価 B
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・授業のICT活用を目指してICT推進部との更なる連携を図る。 ・授業参観・研修会を充実させ、職員の指導力スキルアップに貢献する。 ・業務改善のスピード化で職員の負担を軽減する。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の教育力向上は、重要であり、今後も取り組んでほしい。 	

- 【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。
 B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。
 C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度 保健・教育相談部 年間実施記録

実施計画	重点目標	1. 環境美化を促進し学習環境整備を図る。 2. 心身両面にわたる健康の維持・増進を実現するための支援体制を充実させる。 3. 感染症予防及び感染拡大防止対策を行う。	
	現状	1. 教室内の環境整備状況は概ね良好であるが、高所・隅々等、平常の清掃では清掃が行き届かない箇所がある。 2. 悩みを抱えた生徒が多く、悩みの内容も多様化してきている。昨年度は保健室登校生徒やSC利用生徒が一昨年度より増加した。 3. 感染症陽性者数は全国的に減少傾向である。	
	具体的な目標	・平常の清掃に加え、環境美化週間や長期休業前大清掃等を活用して、学習環境をより一層整備する。 ・生徒等の悩み等が改善・解決できるように支援する。 ・感染症について、状況に応じて臨機応変で適切な対応を図る。	
	目標達成のための方策	・清掃等の重点目標を、実施時期等に応じて効果的に設定する。 ・生徒等個々の状況を関係者（SCを含む）が連携して適切に情報共有し、必要な支援を組織的に行う。必要に応じて校内研修等の機会を設ける。 ・感染症には、今後の状況等の変化により最新の情報に基づき対応する。	
実施内容	具体的な取組状況	・大清掃について、限られた時間で効率よく実施できるよう、実施時期に応じて重点項目の精選を図った。 ・保健室・SC利用者（保護者を含む）は昨年度よりさらに増加した。必要に応じて速やかに養護教諭・SC・学年部が連携を図った。 ・感染症について、管理職とも密に連携し迅速・臨機応変に適切な対策をした。	
	達成状況	・教室内環境・清掃状況は概ね良好であるが、廊下の壁のカビ等、生徒による清掃等での環境整備が憚られる汚れも散見される。 ・特に不登校生徒・保護者に対してSCの尽力が多大であった。 ・可能な限りの手段を講じ最善を尽くしたが、感染症が拡大し、やむを得ず臨時休校や学級閉鎖の措置を講じたこともあった。	評価 A
次年度の改善策		・より効果的に大清掃が実施できるよう、他分掌とも連携し、日課等の見直しを図る。 ・悩みを抱えている生徒・保護者に対して学年部・SCと連携し継続的によりよく支援できるようにする。 ・感染症対策は個人の意思を尊重しながら今後も継続する。	
学校関係者評価	意見	・「達成状況」の内容や、保護者アンケートの内容から評価が甘いように感じた。 ・メンタルへの対応についての評価や展望の記載が少なかったのが、気になります。	
		評価 A	

【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。
 B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。
 C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度

ICT 推進部

年間実施記録

実施計画	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Workspace, Chromebook, 電子黒板等による ICT 活用の促進を図る。 ・先行実施する生徒の個人端末持ち込みに関する手続きやルール作りをし、スムーズな運用ができる体制を作る。 ・業務系サーバ、校務支援システム等の適正な管理・運営を行う。 	
	現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Workspace の導入により、学校全体で ICT 活用推進の環境作りは進んでおり、更なる積極的な活用と効果的な方法の研究が行われている。 ・Chromebook の不具合により、生徒が端末を使えない状況が多数発生している。また職員がその対応に追われている。 ・職員間の情報共有や校務の省力化、授業での ICT 活用は進んだが、職員・生徒の間でリテラシー格差が生じており、活用促進に向けたサポートが必要である。 	
	具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 推進部を中心に更なる ICT 活用による授業への活用と業務の効率化を探る。 ・生徒の個人端末持ち込みに際して起こりうる問題等に対する対応を準備する。 	
	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌打ち合わせ等を利用し、ICT 推進部内で情報交換を密にしていく。 ・ガイドラインの改定をし、職員・生徒に持ち込み端末の利用に対する環境を整備していく。 ・研修会を行い、職員への活用促進を促し業務全体の効率化を図る。 	
実施内容	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用した進路関連資料作成に関する職員研修会を行った他、校内業務の様々な場面で職員の ICT 活用促進に取り組んだ。 ・来年度から個人端末の持ち込みを導入する方針とし、準備に取り組んだ。 ・業務系ドメインの変更、業務サーバの更新、校務支援システムの導入における対応を行った。 	
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の ICT 推進部の活動により、全体にスキルは向上してきている。 ・Chromebook 端末の不具合等は変わらずに起こっているが、可能な限りの対応をしている。来年度からの個人端末の持ち込みに向けて方向性を確立した。 ・業務系ドメインの変更、業務サーバの更新、校務支援システムの導入に適切な対応を行った。 	評価 A
次年度の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・業務ファイルサーバは上限の 500GB に近づいており、対応を考える。 ・個人端末の持ち込みに向けて、他県の例等を参考にして対応を万全とする。 ・職員の ICT スキルの向上のためにさらに研修等に取り組み、共有していく。 	
学校関係者評価	意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や先生に過負荷にならないような、効果的な展開は今後各教科必須である。 ・自己評価に同じ。 	

- 【評価基準】 A：具体的な取り組みがなされ、目標は達成できた。
 B：具体的な取り組みがなされ、目標はほぼ達成できた。
 C：具体的な取り組みがなされておらず、目標はほとんど達成できていない。

令和5年度

理数科

年間実施記録

実施計画	重点目標	<p>1. 日常の学習活動や行事を通して、科学や数学における系統的な理解を深め、自分の考えを積極的に表現する能力と態度を育成する。</p> <p>2. 理数科行事や理数探究の充実を図り、校内外の講座やセミナー、コンクールなどに積極的に参加させる。</p>	
	現 状	<p>1. 探究活動や行事は年々改善され、充実してきている。しかし、そのことに伴い授業時数の確保や授業内での完結が困難となっていており、授業進度が速く学習内容を定着させるための時間が不足している。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症流行も落ち着き、つくば研修や様々なコンクール等の校外行事も少しずつ従来通り実施できるようになってきている。各種講義・実験などの理数科行事には満足している生徒も多く、理数探究の研究においては、自立した研究者の育成を目指した指導がなされている。</p>	
	具体的 な 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科は理数に関する専門教育を行う学科であるという認識のもと、担当する教員は高校レベルを超えた授業や研究を通し、生徒の自然科学に関する高い教養や知的好奇心を高められるよう計画的な指導を行う。 ・2年生の理数探究の時間では、体系的な研究活動を通して、全体のレベルアップを図るとともに、個々の生徒の思考力の深化やプレゼン能力の向上を目指す。 	
	目標達成の ための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT や Google Classroom を授業や研究活動に積極的に導入することにより、一人一人の生徒の情報活用能力の向上を目指す。 ・研究グループごとにチャット Room を開設し、遠隔でのディスカッションを行うなど情報共有を図る。また計画書の編集などにおける生徒同士の協働を推進し、外部団体などが主催するセッション・コンテスト・セミナーなどに積極的に参加させる。 	
実施内容	具体的 な 取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科合同研修会では他校との情報交換を通して探究活動内容の充実を図った。 ・博士号教員や大学教員による専門的な内容の講座を実施した。 ・理数探究発表会を通して、研究内容のまとめ方や効果的なプレゼン方法を学ぶことができた。また活動内容の発信が1年生の理数科志望者増につながった。 	
	達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・理数探究の成果として ① 生物班が日本動物学会東北支部大会の優秀賞を獲得した。 ② 第58回秋田県児童・生徒理科研究発表大会において物理班が最優秀賞を受賞し、来年度の全国高等学校総合文化祭への出場権を得た。 ③ 中高生情報学研究コンテストにおいて東北・北海道ブロック代表として数学情報班が全国大会への出場権を得た。 ・つくば研修では様々な研究施設を見学するとともに、理数探究の成果を「つくば Science Edge」において発表した。 	評 価 B
次 年 度 の 改 善 策		<ul style="list-style-type: none"> ・理数探究のさらなる充実に向け、指導計画と評価方法の整備を行うとともに、各種大会・発表会への出場を計画的に実施する。 ・1年生に魅力ある活動内容を紹介し、希望者を増やす努力を続ける。 	
学校関係者 評 価	意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・できたことだけでなく、課題を残した点を付記すると良かった。 ・「現状」には生徒の実態を具体的に記載し、教師の指導内容は「目標達成のための方策」に記入した方が良い。 ・実績を上げているが、卒後の生徒の動向などが興味深い。 	
		評 価 B	

授業アンケート 比較資料[授業]

		I 授業に対する意欲・姿勢	II 説明や指示の内容		III 授業構成・進度		IV 興味・関心	V 学力向上	VI 言語活動とコミュニケーション		
1年		1. 私は、授業に集中し意欲的に取り組んでいる。	1. 先生の説明や指示・問いかけは、明確である。	2. 先生の板書や資料(プリント・視聴覚教材等)は見やすい。	1. 授業目標が明示され、それが達成される構成になっている。	2. 授業進度は適切である。	1. 興味・関心をきたてる授業内容である。	1. 自身の進路目標と照らし、それ以上の学力レベルへの到達が期待できる授業である。	2. 週間テスト・確認テスト等は基礎力定着に有効である。	1. グループワークや発表・説明等の言語活動の機会がある。	2. 生徒と教師による双方向のコミュニケーションが図られている。
前期	とてもそう思う	59.1	68.0	67.8	61.4	65.9	56.6	59.4	71.3	53.7	52.8
	そう思う	37.3	28.5	28.6	32.4	28.1	35.5	34.6	25.4	32.3	37.3
	そう思わない	3.3	3.2	3.3	5.8	5.4	7.2	5.0	2.8	11.9	8.9
	全くそう思わない	0.3	0.3	0.3	0.3	0.6	0.6	1.0	0.6	2.0	1.0
後期	とてもそう思う	63.1	71.3	69.8	67.8	71.1	62.4	67.6	72.3	62.5	61.0
	そう思う	34.3	26.1	26.6	28.3	25.0	32.2	29.2	24.7	26.8	32.1
	そう思わない	2.4	2.5	3.5	3.7	3.5	4.8	2.8	2.3	8.6	6.3
	全くそう思わない	0.2	0.1	0.2	0.2	0.4	0.6	0.4	0.7	2.1	0.6

後期では、全体的に「とてもそう思う」が増加し、「そう思う」が減少しているが、全体的な肯定的な意見の割合は前期よりも増加している。高校生活にも慣れ、授業にも前向きに取り組んでいると考えられる。ほとんどの項目で「そう思わない」「全くそう思わない」の合計も減少している。しかし言語活動とコミュニケーションの項目で否定的な意見が若干高く、各授業での授業改善が求められる。

		I 授業に対する意欲・姿勢	II 説明や指示の内容		III 授業構成・進度		IV 興味・関心	V 学力向上	VI 言語活動とコミュニケーション		
2年		1. 私は、授業に集中し意欲的に取り組んでいる。	1. 先生の説明や指示・問いかけは、明確である。	2. 先生の板書や資料(プリント・視聴覚教材等)は見やすい。	1. 授業目標が明示され、それが達成される構成になっている。	2. 授業進度は適切である。	1. 興味・関心をきたてる授業内容である。	1. 自身の進路目標と照らし、それ以上の学力レベルへの到達が期待できる授業である。	2. 週間テスト・確認テスト等は基礎力定着に有効である。	1. グループワークや発表・説明等の言語活動の機会がある。	2. 生徒と教師による双方向のコミュニケーションが図られている。
前期	とてもそう思う	54.5	67.3	65.9	61.9	67.3	57.2	62.7	71.1	52.3	57.4
	そう思う	41.5	29.9	30.9	34.0	29.7	35.0	32.7	26.4	32.7	33.5
	そう思わない	3.4	2.4	2.7	3.7	2.6	6.5	3.7	2.0	13.3	7.4
	全くそう思わない	0.6	0.4	0.5	0.4	0.3	1.4	0.9	0.5	1.6	1.7
後期	とてもそう思う	55.4	63.7	65.2	57.3	62.6	53.6	59.7	66.8	49.8	55.4
	そう思う	39.2	32.5	30.2	36.8	32.7	38.9	34.5	31.3	34.1	34.5
	そう思わない	4.4	3.0	3.5	5.3	4.1	6.0	4.5	1.5	12.7	8.2
	全くそう思わない	0.2	0.7	0.0	0.2	1.1	1.1	0.9	0.4	2.5	0.7

後期では、「とてもそう思う」が減少し、「そう思う」が増加しているが、全体的な肯定的な意見の割合はほとんど変化がない。ほとんどの項目で「全くそう思わない」という意見は減少しているものの、「そう思わない」「全くそう思わない」の合計が、興味・関心、テストの有効性以外の項目で後期に増加しており、今後も授業改善をいく必要がある。

		I 授業に対する意欲・姿勢	II 説明や指示の内容		III 授業構成・進度		IV 興味・関心	V 学力向上	VI 言語活動とコミュニケーション		
3年		1. 私は、授業に集中し意欲的に取り組んでいる。	1. 先生の説明や指示・問いかけは、明確である。	2. 先生の板書や資料(プリント・視聴覚教材等)は見やすい。	1. 授業目標が明示され、それが達成される構成になっている。	2. 授業進度は適切である。	1. 興味・関心をきたてる授業内容である。	1. 自身の進路目標と照らし、それ以上の学力レベルへの到達が期待できる授業である。	2. 週間テスト・確認テスト等は基礎力定着に有効である。	1. グループワークや発表・説明等の言語活動の機会がある。	2. 生徒と教師による双方向のコミュニケーションが図られている。
前期	とてもそう思う	58.4	64.2	62.2	61.5	62.4	58.6	63.1	65.5	52.5	58.8
	そう思う	37.5	33.4	34.7	36.3	34.3	36.3	33.2	30.4	37.8	34.7
	そう思わない	4.0	2.0	2.6	2.0	2.9	4.4	2.9	2.0	7.6	5.0
	全くそう思わない	0.1	0.4	0.5	0.3	0.5	0.8	0.9	2.1	2.1	1.4
後期	とてもそう思う	66.0	67.4	67.2	66.4	68.3	64.9	67.6	67.3	51.9	60.2
	そう思う	31.9	30.7	30.9	31.4	28.5	32.0	30.1	32.3	36.8	33.8
	そう思わない	2.0	1.5	1.6	1.8	2.0	2.3	1.6	0.2	9.1	5.4
	全くそう思わない	0.1	0.4	0.3	0.4	1.2	0.9	0.7	0.2	2.2	0.7

後期になり、受験に向けて積極的に取り組んでいる様子が感じられる。後期ではほとんどの項目で「とてもそう思う」の意見が増えている。特に「授業に対する意欲・姿勢」や「説明や指示の内容」「学力向上」に関して肯定的な意見が高くなっている。「グループワークや言語活動の機会」「双方向のコミュニケーション」に関しては今後も改善に向けて工夫する必要がある。

令和5年度 保護者用「学校評価アンケート」集計結果(全体)

総務部

◎調査票配付日 12月6日

アンケート回収数	
1年	162
2年	124
3年	91
総計	377

質問番号	質問項目	調査年度	評価段階				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらかというと思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
1	学校では生命の尊厳や他者を思いやるなどの豊かな心の育成が図られている	R5	34.0%	47.2%	6.6%	0.0%	12.2%
		R4	28.0%	50.7%	5.3%	0.0%	16.1%
		R3	32.8%	46.5%	7.0%	0.0%	13.8%
2	学校では一人一人の生徒の持つ能力や特性の一層の開発・伸長が図られている	R5	39.8%	47.6%	6.7%	0.0%	5.9%
		R4	36.7%	48.2%	7.1%	0.0%	8.0%
		R3	45.0%	42.7%	5.2%	0.0%	7.1%
3	学校では明確な進路目標を持ち、その達成に向かって主体的に学び続ける生徒を育成している	R5	56.4%	39.6%	1.6%	0.0%	2.4%
		R4	56.9%	38.5%	2.9%	0.0%	1.8%
		R3	62.8%	32.9%	2.2%	0.0%	2.0%
4	学校では進路希望に沿って一層の学力向上に取り組んでいる	R5	55.3%	38.3%	3.5%	0.0%	2.9%
		R4	60.0%	34.7%	3.1%	0.0%	2.2%
		R3	62.4%	33.6%	2.0%	0.0%	1.9%
5	学校からの進路情報は役立っている	R5	50.4%	40.0%	5.1%	0.0%	4.5%
		R4	48.7%	43.2%	3.5%	0.0%	4.6%
		R3	52.9%	37.0%	4.7%	0.0%	5.4%
6	学校では整容やマナーについての指導は適切である	R5	33.5%	43.4%	12.2%	0.0%	10.9%
		R4	34.6%	45.0%	8.3%	0.0%	12.1%
		R3	33.7%	45.7%	8.7%	0.0%	12.0%
7	学校ではいじめや不登校について効果的な指導を行っている	R5	20.1%	36.7%	9.1%	0.0%	34.0%
		R4	17.7%	32.3%	8.2%	0.0%	41.8%
		R3	22.3%	35.3%	6.5%	0.0%	35.9%
8	学校行事は適切に運営されている	R5	63.9%	31.0%	2.9%	0.0%	2.1%
		R4	60.3%	36.0%	2.0%	0.0%	1.8%
		R3	62.6%	33.4%	1.4%	0.0%	2.5%
9	家庭として学校への協力は十分である	R5	25.9%	59.2%	6.9%	0.0%	8.0%
		R4	27.8%	58.1%	4.9%	0.0%	9.3%
		R3	26.7%	60.0%	5.5%	0.0%	7.8%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢						
			1	2	3	4	5	6	7
			授業	生徒会・HR	部活動	学校行事	休み時間	講座	その他
10	御子様は学校でどんな時が楽しいと言っていますか。該当するものをすべてあげてください	R5	35.5%	9.0%	57.6%	73.2%	46.7%	11.4%	9.5%
		R4	39.4%	8.1%	56.2%	71.6%	43.8%	10.4%	9.5%
		R3	50.3%	9.5%	66.9%	73.1%	57.3%	15.5%	3.3%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢					
			1	2	3	4	5	6
			どの教科もよくわかる	わかる教科が多い	わかる教科は少ない	理解できずに苦しんでいる	聞いたことがない	その他
11	御子様は授業に対してどんな感想や意見を述べていますか	R5	10.3%	60.6%	10.6%	4.3%	10.9%	3.3%
		R4	11.4%	59.4%	8.6%	3.6%	9.2%	7.7%
		R3	11.0%	58.4%	8.9%	4.4%	11.0%	6.4%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢								
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			学習指導	基本的な生活習慣	進路指導	部活動	体力向上や健康	IT教育	国際理解	ボランティア	その他
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (1番目)	R5	46.8%	6.5%	24.7%	1.8%	4.1%	6.7%	6.7%	2.8%	0.0%
		R4	48.4%	5.8%	25.7%	1.4%	4.2%	5.0%	7.0%	2.6%	0.0%
		R3	48.2%	6.2%	23.3%	3.1%	3.4%	6.0%	7.0%	2.7%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (2番目)	R5	18.0%	9.0%	36.6%	7.6%	5.4%	9.0%	9.8%	4.6%	0.0%
		R4	20.9%	7.0%	38.3%	7.2%	4.7%	9.0%	8.4%	4.5%	0.0%
		R3	20.4%	10.0%	38.8%	6.4%	2.7%	9.6%	7.0%	5.1%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (3番目)	R5	5.6%	16.5%	12.2%	11.7%	8.2%	20.7%	16.2%	8.8%	0.0%
		R4	4.7%	15.3%	11.5%	13.1%	8.1%	20.3%	15.1%	11.7%	0.0%
		R3	7.2%	17.8%	11.8%	10.6%	9.2%	18.3%	16.0%	9.2%	0.0%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢	
			1	2
			ある	ない
13	Chromebookの導入前と導入後でお子さんの学習に変化はありましたか。	R5	27.9%	72.1%
		R4	56.3%	43.8%
		R3	50.0%	50.0%

令和5年度 保護者用「学校評価アンケート」集計結果(1年生)

◎調査票配付日 12月6日

質問番号	質問項目	調査年度	評価段階				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらかという思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
1	学校では生命の尊厳や他者を思いやるなどの豊かな心の育成が図られている	R5	31.5%	50.6%	7.4%	0.0%	10.5%
		R4	22.7%	50.3%	6.5%	0.0%	20.5%
		R3	30.1%	47.9%	6.8%	0.0%	15.1%
2	学校では一人一人の生徒の持つ能力や特性の一層の開発・伸長が図られている	R5	38.3%	50.0%	7.4%	0.0%	3.1%
		R4	28.8%	52.7%	8.7%	0.0%	9.8%
		R3	44.8%	42.1%	5.4%	0.0%	7.7%
3	学校では明確な進路目標を持ち、その達成に向かって主体的に学び続ける生徒を育成している	R5	52.5%	44.4%	1.9%	0.0%	1.2%
		R4	51.9%	42.7%	3.2%	0.0%	2.2%
		R3	64.1%	31.8%	1.4%	0.0%	2.7%
4	学校では進路希望に沿って一層の学力向上に取り組んでいる	R5	54.3%	41.4%	3.1%	0.0%	1.2%
		R4	53.8%	40.2%	2.2%	0.0%	3.8%
		R3	61.1%	34.8%	1.4%	0.0%	2.7%
5	学校からの進路情報は役立っている	R5	47.5%	44.4%	5.6%	0.0%	2.5%
		R4	43.8%	45.4%	3.2%	0.0%	7.6%
		R3	50.0%	38.2%	3.6%	0.0%	8.2%
6	学校では整容やマナーについての指導は適切である	R5	36.4%	42.6%	13.0%	0.0%	8.0%
		R4	30.8%	47.6%	8.6%	0.0%	13.0%
		R3	35.9%	43.6%	10.9%	0.0%	9.5%
7	学校ではいじめや不登校について効果的な指導を行っている	R5	19.1%	38.9%	8.6%	0.0%	33.3%
		R4	13.0%	31.9%	7.0%	0.0%	48.1%
		R3	21.5%	33.8%	7.3%	0.0%	37.4%
8	学校行事は適切に運営されている	R5	59.3%	38.9%	1.9%	0.0%	0.0%
		R4	57.3%	36.8%	3.2%	0.0%	2.7%
		R3	65.0%	30.5%	0.9%	0.0%	3.6%
9	家庭として学校への協力は十分である	R5	27.8%	61.1%	6.2%	0.0%	4.9%
		R4	25.1%	58.5%	4.9%	0.0%	11.5%
		R3	27.7%	57.7%	4.5%	0.0%	10.0%

アンケート回収数	
1年	162

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢						
			1	2	3	4	5	6	7
			授業	生徒会・HR	部活動	学校行事	休み時間	講座	その他
10	御子様は学校でどんな時が楽しいと言っていますか。該当するものをすべてあげてください	R5	37.0%	9.9%	61.1%	74.1%	49.4%	13.6%	10.5%
		R4	44.9%	7.0%	58.9%	66.5%	46.5%	11.9%	11.4%
		R3	60.7%	12.8%	86.3%	76.3%	67.1%	16.4%	4.1%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢					
			1	2	3	4	5	6
			どの教科もよくわかる	わかる教科が多い	わかる教科は少ない	理解できずに苦しんでいる	聞いたことがない	その他
11	御子様は授業に対してどんな感想や意見を述べていますか	R5	8.6%	61.1%	9.3%	3.1%	10.5%	7.4%
		R4	11.2%	55.3%	11.2%	5.3%	10.6%	6.4%
		R3	10.8%	58.2%	11.3%	3.8%	10.3%	5.6%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢								
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			学習指導	基本的生活習慣	進路指導	部活動	体力向上や健康	IT教育	国際理解	ボランティア	その他
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (1番目)	R5	54.3%	9.9%	24.7%	1.2%	4.9%	8.6%	5.6%	1.9%	0.0%
		R4	49.5%	7.7%	19.2%	1.9%	4.3%	6.7%	7.7%	2.9%	0.0%
		R3	47.9%	7.2%	22.1%	3.8%	3.8%	5.3%	7.6%	2.3%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (2番目)	R5	18.5%	8.6%	38.9%	9.9%	6.8%	11.1%	12.3%	6.2%	0.0%
		R4	17.3%	5.6%	42.1%	6.1%	8.1%	8.6%	8.6%	3.6%	0.0%
		R3	17.4%	11.6%	37.6%	9.5%	2.9%	10.3%	5.8%	5.0%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (3番目)	R5	6.8%	17.3%	14.2%	11.1%	6.8%	16.0%	17.3%	9.3%	0.0%
		R4	6.7%	14.4%	14.4%	14.4%	2.8%	23.3%	13.9%	10.0%	0.0%
		R3	9.1%	17.2%	14.4%	10.5%	8.6%	15.8%	17.2%	7.2%	0.0%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢	
			1	2
			ある	ない
13	Chromebookの導入前と導入後でお子さんの学習に変化はありましたか。	R5	35.2%	60.5%
		R4	54.4%	45.6%
		R3	52.4%	47.6%

令和5年度 保護者用「学校評価アンケート」集計結果(2年生)

◎調査票配付日 12月6日

質問番号	質問項目	調査年度	評価段階				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらかという思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
1	学校では生命の尊厳や他者を思いやるなどの豊かな心の育成が図られている	R5	24.2%	53.2%	6.5%	0.0%	16.1%
		R4	33.6%	47.0%	8.2%	0.0%	11.2%
		R3	23.3%	50.0%	7.8%	0.0%	18.9%
2	学校では一人一人の生徒の持つ能力や特性の一層の開発・伸長が図られている	R5	31.5%	51.6%	6.5%	0.0%	9.7%
		R4	42.1%	42.1%	8.3%	0.0%	7.5%
		R3	32.5%	51.0%	6.8%	0.0%	9.7%
3	学校では明確な進路目標を持ち、その達成に向かって主体的に学び続ける生徒を育成している	R5	50.8%	41.9%	2.4%	0.0%	4.0%
		R4	59.3%	35.6%	4.4%	0.0%	0.7%
		R3	52.4%	40.9%	5.3%	0.0%	1.4%
4	学校では進路希望に沿って一層の学力向上に取り組んでいる	R5	50.0%	41.1%	3.2%	0.0%	4.8%
		R4	61.8%	31.6%	5.9%	0.0%	0.7%
		R3	56.3%	39.9%	2.9%	0.0%	1.0%
5	学校からの進路情報は役立っている	R5	47.6%	39.5%	5.6%	0.0%	7.3%
		R4	47.8%	44.1%	5.1%	0.0%	2.9%
		R3	45.7%	41.3%	8.2%	0.0%	4.8%
6	学校では整容やマナーについての指導は適切である	R5	27.4%	43.5%	12.9%	0.0%	15.3%
		R4	37.5%	43.4%	8.8%	0.0%	10.3%
		R3	27.4%	45.7%	8.7%	0.0%	18.3%
7	学校ではいじめや不登校について効果的な指導を行っている	R5	12.1%	33.1%	12.1%	0.0%	41.1%
		R4	21.5%	31.1%	9.6%	0.0%	37.8%
		R3	15.5%	35.9%	6.3%	0.0%	42.2%
8	学校行事は適切に運営されている	R5	61.3%	27.4%	5.6%	0.0%	5.6%
		R4	64.7%	32.4%	1.5%	0.0%	1.5%
		R3	50.2%	44.0%	2.9%	0.0%	2.9%
9	家庭として学校への協力は十分である	R5	21.0%	58.9%	8.9%	0.0%	11.3%
		R4	27.9%	60.3%	4.4%	0.0%	7.4%
		R3	24.2%	61.4%	6.3%	0.0%	8.2%

アンケート回収数	
2年	124

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢						
			1	2	3	4	5	6	7
			授業	生徒会・HR	部活動	学校行事	休み時間	講座	その他
10	御子様は学校でどんな時が楽しいと言っていますか。該当するものをすべてあげてください	R5	36.3%	10.5%	56.5%	72.6%	41.1%	12.9%	5.6%
		R4	33.6%	7.5%	56.7%	73.9%	39.6%	7.5%	9.7%
		R3	43.7%	8.3%	64.6%	71.8%	54.4%	16.5%	3.9%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢					
			1	2	3	4	5	6
			どの教科もよくわかる	わかる教科が多い	わかる教科は少ない	理解できずに苦しんでいる	聞いたことがない	その他
11	御子様は授業に対してどんな感想や意見を述べていますか	R5	8.9%	57.3%	11.3%	4.8%	11.3%	0.0%
		R4	11.6%	60.9%	10.1%	3.6%	5.1%	8.7%
		R3	7.7%	56.9%	8.1%	6.2%	13.9%	7.2%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢								
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			学習指導	基本的生活習慣	進路指導	部活動	体力向上や健康	IT教育	国際理解	ボランティア	その他
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (1番目)	R5	54.0%	4.8%	35.5%	2.4%	4.8%	6.5%	8.9%	4.8%	0.0%
		R4	51.6%	4.6%	26.1%	1.3%	5.2%	2.6%	5.9%	2.6%	0.0%
		R3	48.3%	5.2%	27.4%	2.6%	2.6%	6.1%	5.2%	2.6%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (2番目)	R5	20.2%	12.1%	39.5%	7.3%	7.3%	5.6%	8.9%	4.8%	0.0%
		R4	19.9%	8.2%	39.0%	8.2%	1.4%	11.6%	7.5%	4.1%	0.0%
		R3	24.2%	8.7%	39.3%	5.0%	2.3%	9.1%	6.4%	5.0%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (3番目)	R5	2.4%	14.5%	12.1%	12.1%	7.3%	26.6%	13.7%	6.5%	0.0%
		R4	3.8%	18.2%	9.8%	11.4%	11.4%	16.7%	15.2%	13.6%	0.0%
		R3	5.9%	19.3%	10.9%	11.4%	10.9%	16.3%	15.8%	9.4%	0.0%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢	
			1	2
			ある	ない
13	Chromebookの導入前と導入後でお子さんの学習に変化はありましたか。	R5	36.3%	59.7%
		R4	54.1%	45.9%
		R3	45.4%	54.6%

令和5年度 保護者用「学校評価アンケート」集計結果(3年生)

◎調査票配付日 12月6日

質問番号	質問項目	調査年度	評価段階				
			1	2	3	4	5
			そう思う	どちらかという思う	あまり思わない	まったく思わない	わからない
1	学校では生命の尊厳や他者を思いやるなどの豊かな心の育成が図られている	R5	50.5%	32.3%	5.4%	0.0%	9.7%
		R4	29.6%	54.8%	0.7%	0.0%	14.8%
		R3	44.9%	41.5%	6.3%	0.0%	7.2%
2	学校では一人一人の生徒の持つ能力や特性の一層の開発・伸長が図られている	R5	51.6%	35.5%	5.4%	0.0%	5.4%
		R4	42.2%	48.1%	3.7%	0.0%	5.9%
		R3	57.5%	35.3%	3.4%	0.0%	3.9%
3	学校では明確な進路目標を持ち、その達成に向かって主体的に学び続ける生徒を育成している	R5	68.8%	26.9%	0.0%	0.0%	2.2%
		R4	61.5%	35.6%	0.7%	0.0%	2.2%
		R3	72.0%	26.1%	0.0%	0.0%	1.9%
4	学校では進路希望に沿って一層の学力向上に取り組んでいる	R5	62.4%	28.0%	4.3%	0.0%	3.2%
		R4	66.7%	30.4%	1.5%	0.0%	1.5%
		R3	70.0%	26.1%	1.9%	0.0%	1.9%
5	学校からの進路情報は役立っている	R5	57.0%	31.2%	3.2%	0.0%	4.3%
		R4	56.4%	39.1%	2.3%	0.0%	2.3%
		R3	63.4%	31.2%	2.4%	0.0%	2.9%
6	学校では整容やマナーについての指導は適切である	R5	35.5%	43.0%	9.7%	0.0%	9.7%
		R4	37.0%	43.0%	7.4%	0.0%	12.6%
		R3	37.7%	47.8%	6.3%	0.0%	8.2%
7	学校ではいじめや不登校について効果的な指導を行っている	R5	31.2%	35.5%	5.4%	0.0%	23.7%
		R4	20.5%	34.1%	8.3%	0.0%	37.1%
		R3	29.9%	36.3%	5.9%	0.0%	27.9%
8	学校行事は適切に運営されている	R5	74.2%	21.5%	1.1%	0.0%	1.1%
		R4	60.0%	38.5%	0.7%	0.0%	0.7%
		R3	72.5%	26.1%	0.5%	0.0%	1.0%
9	家庭として学校への協力は十分である	R5	28.0%	53.8%	5.4%	0.0%	8.6%
		R4	31.3%	55.2%	5.2%	0.0%	8.2%
		R3	28.3%	61.0%	5.9%	0.0%	4.9%

アンケート回収数	
3年	91

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢						
			1	2	3	4	5	6	7
			授業	生徒会・HR	部活動	学校行事	休み時間	講座	その他
10	御子様は学校でどんな時が楽しいと言っていますか。該当するものをすべてあげてください	R5	31.2%	5.4%	51.6%	71.0%	48.4%	5.4%	12.9%
		R4	37.8%	10.4%	51.9%	76.3%	44.4%	11.1%	6.7%
		R3	45.9%	7.2%	48.8%	71.0%	49.8%	13.5%	1.9%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢					
			1	2	3	4	5	6
			どの教科もよくわかる	わかる教科が多い	わかる教科は少ない	理解できずに苦しんでいる	聞いたことがない	その他
11	御子様は授業に対してどんな感想や意見を述べていますか	R5	14.0%	57.0%	10.8%	5.4%	9.7%	0.0%
		R4	11.4%	63.6%	3.6%	1.4%	11.4%	8.6%
		R3	14.3%	59.9%	7.4%	3.2%	8.8%	6.5%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢								
			1	2	3	4	5	6	7	8	9
			学習指導	基本的生活習慣	進路指導	部活動	体力向上や健康	IT教育	国際理解	ボランティア	その他
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (1番目)	R5	51.6%	6.5%	24.7%	3.2%	4.3%	7.5%	9.7%	3.2%	0.0%
		R4	43.3%	4.3%	34.8%	0.7%	2.8%	5.0%	7.1%	2.1%	0.0%
		R3	48.6%	6.0%	20.6%	2.8%	3.7%	6.9%	8.3%	3.2%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (2番目)	R5	20.4%	8.6%	40.9%	6.5%	2.2%	12.9%	9.7%	3.2%	0.0%
		R4	26.9%	7.6%	32.4%	7.6%	3.4%	6.9%	9.0%	6.2%	0.0%
		R3	19.8%	9.7%	39.6%	4.3%	2.9%	9.2%	9.2%	5.3%	0.0%
12	学校にもっと力を入れてほしいことは何ですか。三つ選び、希望の高い順に1番目～3番目に答えてください (3番目)	R5	7.5%	17.2%	8.6%	11.8%	11.8%	20.4%	17.2%	10.8%	0.0%
		R4	3.1%	13.7%	9.2%	13.0%	12.2%	19.8%	16.8%	12.2%	0.0%
		R3	6.5%	16.9%	10.0%	10.0%	8.0%	22.9%	14.9%	10.9%	0.0%

質問番号	質問項目	調査年度	選択肢	
			1	2
			ある	ない
13	Chromebookの導入前と導入後でお子さんの学習に変化はありましたか。	R5	0.0%	97.8%
		R4	60.9%	39.1%
		R3	52.2%	47.8%